

ともに60周年の集い 日本WHO協会 × JICA海外協力隊



2025年9月12日
中村安秀
日本WHO協会・理事長



公益社団法人 日本 WHO 協会
FRIENDS OF WHO JAPAN

世界保健機関（WHO）憲章

Constitution of the World Health Organization (WHO)

signed on 22 July 1946 by 61 States and
entered into force on 7 April 1948

世界保健機関（WHO）憲章は、1946年7月22日にニューヨークで61か国の代表が調印した。しかし、国連加盟国26カ国が当事国となること（WHO憲章第80条）が条件だったために、そのときには発効できなかった。その後、要件を満たしたWHOは、1948年4月7日に国連の専門機関として正式に誕生し、WHO憲章も1948年4月7日より効力が発生した。

Health is a state of complete physical, mental and social **well-being** and not merely the absence of disease or infirmity.

健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます。（公益社団法人 日本WHO協会 訳）

健康は平和の礎（いしずえ）

WHO憲章・前文

The health of all peoples is fundamental to attaining peace and security and depends upon the fullest co-operation of individuals and States.

世界中すべての人々が健康であることは、平和と安全を達成するための基礎であり、その成否は、個人と国家の全面的な協力が得られるかどうかにかかっています。



JICA母子保健プロジェクトの専門家として、パレスチナ西岸地区を訪問。ジェリコ市の病院、母子センターを視察
(2007年)

公益社団法人 日本WHO協会

(Friends of WHO Japan)

経緯：

1965年 京都で設立
2012年 公益社団法人 認定

日本WHO協会は、世界保健機関（WHO）の日本支部ではなく、WHOの理念に賛同し、WHOとの連携のもとで国内外で健康増進活動を行っている民間の法人。

基本方針：

世界の人びとの健康を守るため地球市民の一員として、WHOをはじめとする国際機関、政府、地方自治体、企業、団体、NPO/NGOなどと協働し、だれひとり取り残されない「持続可能な開発目標（SDGs）」の目標達成をめざす。

活動への参加者募集中！

『目で見えるWHO』編集委員
「関西グローバルヘルスの集い」運営委員募集
立命館大学国際平和ミュージアム展示協力者募集
医療者応援はがきプロジェクト！



WHO最新ニュース

2020.11.09

[WHO：COVID-19治療薬とワクチンの評価と安全性に関する共同声明発表](#)

WHOと東南アジア諸国連帯地域（SEAR）は、COVID-19に対する安全で効果のある治療薬の共同声明を発表しました。

2020.11.09

[世界保健総会開催（第73回総会の再開11.9～11.14）](#)

世界の保健分野のリーダーたちは5月に開催された第73回世界保健総会の続きとして、11月9日～14日にオンラインで開会しました。

2020.11.04

[WHO：小島嶼開発途上国の気候変動と健康に関する状況を公表](#)

小島嶼開発途上国（SIDS）は、気候変動に対して最も脆弱な国々となっています。それだけでなく多くの小島嶼は、海面上昇の影響を被っています。

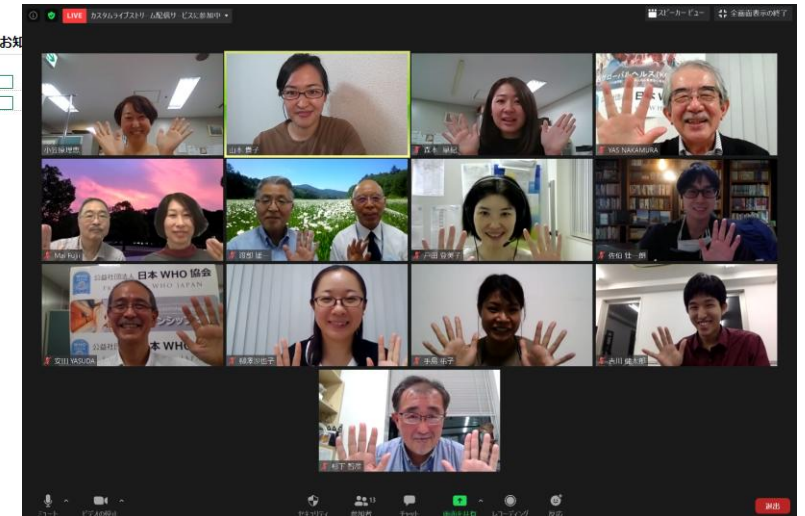
日本WHO協会からのお知らせ

2020.10.20

[イベント](#)

2020.10.20

[イベント](#)



日本で最初の世界保健デー（1966年）

1966年4月6日 第18回世界保健デー記念中央大会

（京都新聞ホール）

講演：

「過大都市の問題」

棚橋諒氏（京都大学・教授、京都大学防災研究所・初代所長）

「日本人の健康」

武見太郎氏（日本医師会・会長）

なお、前年の1965年に日本WHO協会が設立された。

初代会長は中野種一郎氏（元京都商工会議所会頭）。

副会長には、松下幸之助氏、武見太郎氏、千宗室氏などが就任した。

『目で見るWHO』には WHO事務局長も投稿していた

マーラーWHO事務局長（1973年－88年）

Halfdan T. Mahler氏（1923－2016）デンマーク出身

（1978年プライマリヘルスケアが採択されたアルマアタ会議を主催した時のWHO事務局長として知られる）

「**第26回世界保健デーに寄せて**

世界は富んでいますが、そのせっかくの富も、十分に活用されてはおりません。何百万という人びとが慢性の飢餓と栄養失調におびえて生活を送っている一方では、食べ過ぎて、別の意味での栄養失調に陥っている人もいますのです。」

（日本WHO協会『目で見るWHO』第7号、1974年）



日本WHO協会の経緯

1965 WHO 憲章の精神普及を目的とする社団法人日本 WHO 協会の設立（京都）

1966 「世界保健デー記念中央大会」開催（京都新聞ホール）

1968 機関誌『目で見えるWHO』創刊号発行。

2000 全国各地に支部を設立し、健康フォーラム事業などを展開

2004 業務運営とWHOロゴ使用に際して厚生労働省より改善勧告を受ける

2005 倫理委員会を設置し、すべての支部を閉鎖

2007 事務局を京都より大阪市に移転

2010 關淳一氏（元大阪市長）が理事長に就任し、組織体制を一新。

WHO 神戸センターのクマレサン所長を招待し、フォーラム「WHO と日本」を実施

2012 公益社団法人格を取得し、「公益社団法人日本WHO協会」となる

2014 WHO 本部から発信されるファクトシートの翻訳出版権を付与される

2019 「関西グローバルヘルスの集い」セミナー開始。

英語名称をFriends of WHO Japanに変更。

2022 「世界保健デー」国内イベントを復活

日本WHO協会の活動

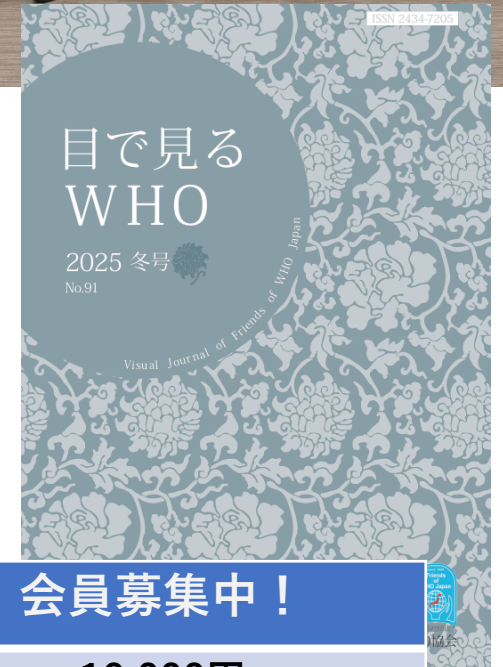
(Friends of WHO Japan)

日本WHO協会は、世界保健機関（WHO）憲章の理念に賛同し、WHOとの連携のもとで国内外で健康増進活動を行っている民間の法人。グローバルヘルスに関心を持つ人なら、だれでも参画できます。機関誌発行、イベント開催などをいっしょにしませんか？

WHOファクトシートの翻訳

WHOから翻訳権付与。ホームページ上で公開
機関誌『目で見えるWHO』発行
年4回。編集委員募集中。

「関西グローバルヘルスの集い」を開催
「世界健康デー」（4月7日）の主催



	会員募集中！
法人賛助会員	10,000円
賛助会員 (学生)	1口 5,000円 (2,000円)

WHO世界健康デー2025

Healthy beginnings, hopeful futures
(健やかな始まり、希望のある未来へ)

母親と赤ちゃんの健康は、健康な家族と地域社会の基盤であり、私たちすべてに明るい未来を約束します！

WHOは妊産婦と新生児の死亡をなくするための取り組みを強化し、女性の長期的な健康とウェルビーイングを各国政府と保健医療関係者に呼びかけます！

<https://japan-who.or.jp/news-releases/2502-15/>



動画大募集中

母親と赤ちゃんの健康は、健康な家族と地域社会の基盤であり、私たちすべてに明るい未来を約束します。皆さん方の自由な発想で、「健やかな始まり、希望のある未来へ」をアピールする動画をお待ちしています！

賞金

- ・優秀賞 5万円 記念品
- ・奨励賞 1万円 記念品

入賞作品は、世界健康デー上映予定（2026年4月7日開催）

<https://japan-who.or.jp/about-us/notice/2508-1/>

動画大募集

募集期間：2025年8月1日(金)～2025年12月1日(月)



テーマ：Healthy beginnings, hopeful futures
(健やかな始まり、希望のある未来へ)